

令和6年度

佐賀県立九州陶磁文化館協議会

日時 令和6年8月1日(木)13時30分～

会場 佐賀県立九州陶磁文化館 会議室(研修室1)



九州陶磁文化館の概要



1 設立の趣旨

陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示、調査研究、教育普及を図り、併せて九州圏域の陶磁文化の振興に寄与する。

2 施設の概要

- | | |
|--------|--|
| (1)開館日 | 昭和55年(1980年)11月1日 |
| (2)工事費 | 1,745,100千円 |
| (3)規模 | (構造) 鉄筋コンクリート造 (地上2階、一部3階)
(敷地面積) 43,619.59㎡ (建築面積) 3,831.93㎡
(延床面積) 6,526.54㎡ |

九州陶磁文化館の概要



3 館蔵資料

15,519 件 29,234 点

令和5年度末現在
(開館当初は、49件 82点)

重要文化財 2件 登録有形文化財 1件(柴田夫妻コレクション) 佐賀県重要文化財 10件



染付鷺文三足大皿

肥前鍋島藩窯
1690~1710年代
重要文化財



染付山水文輪花大皿

肥前 有田
1640~1650年代
重要文化財



色絵花鳥文六角壺

肥前 有田 南川原山
1670~1690年代
佐賀県重要文化財



灰釉彫文茶碗 銘 玄海

肥前
1580-1600年代
佐賀県重要文化財

九州陶磁文化館の概要



4 組織・体制

館長

会計年度任用職員

統括副館長

企画総務課 | 9名

課長、係長、主査(再任用職員)、主事
受付(5名) 会計年度任用職員

学芸課 | 6名

課長、主査(2名)、主事
英語対応(2名) 会計年度任用職員

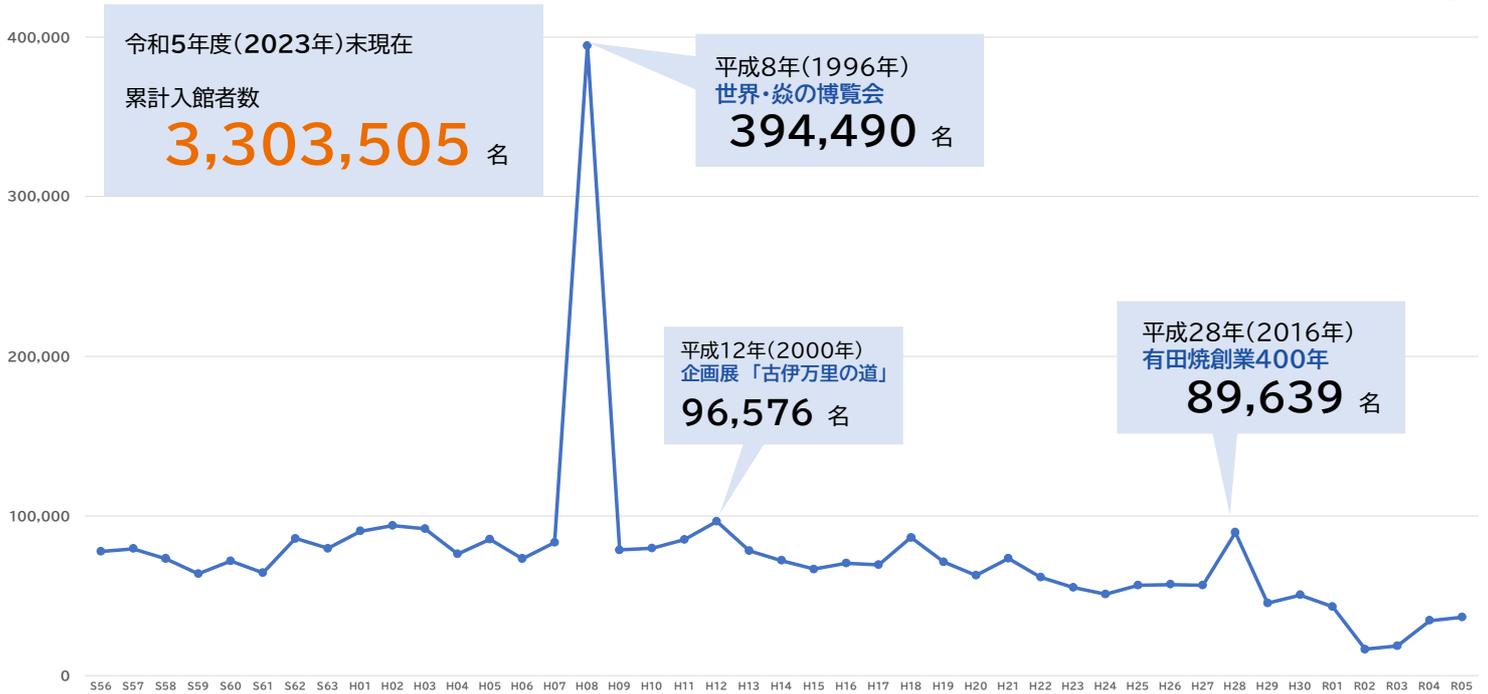
職員数 19名

うち
会計年度任用職員 9名
非常勤職員 1名

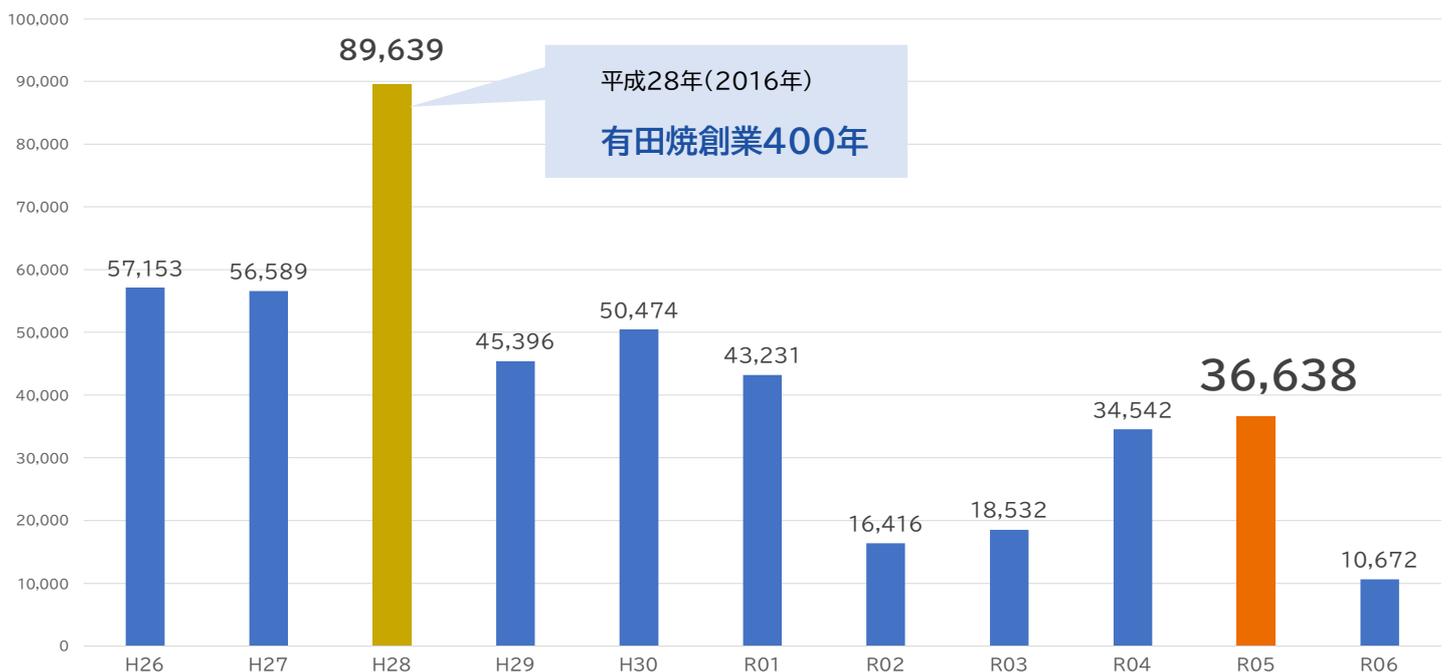
シニア・アドバイザー・フェロー 会計年度任用職員

名誉顧問 非常勤職員

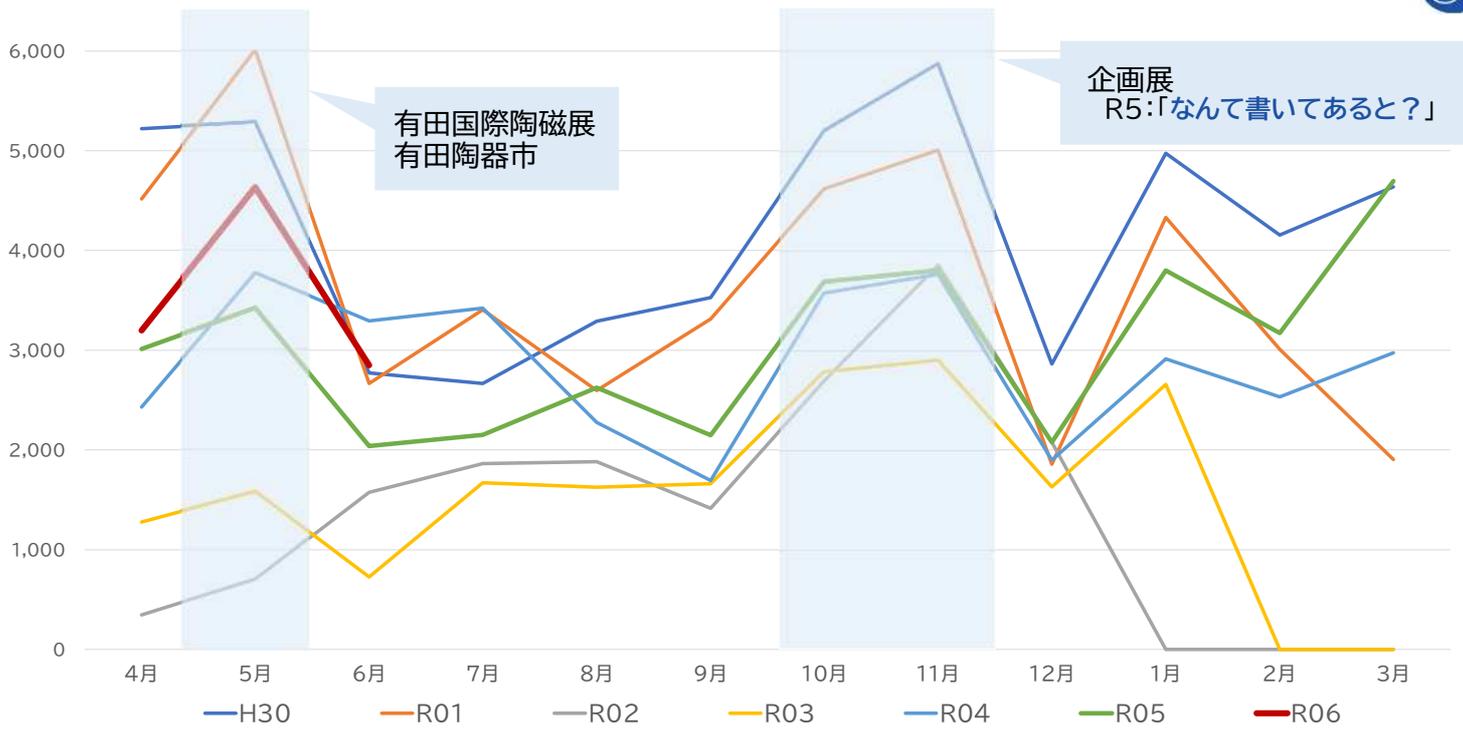
入館者の推移 (昭和55年度～令和5年度)



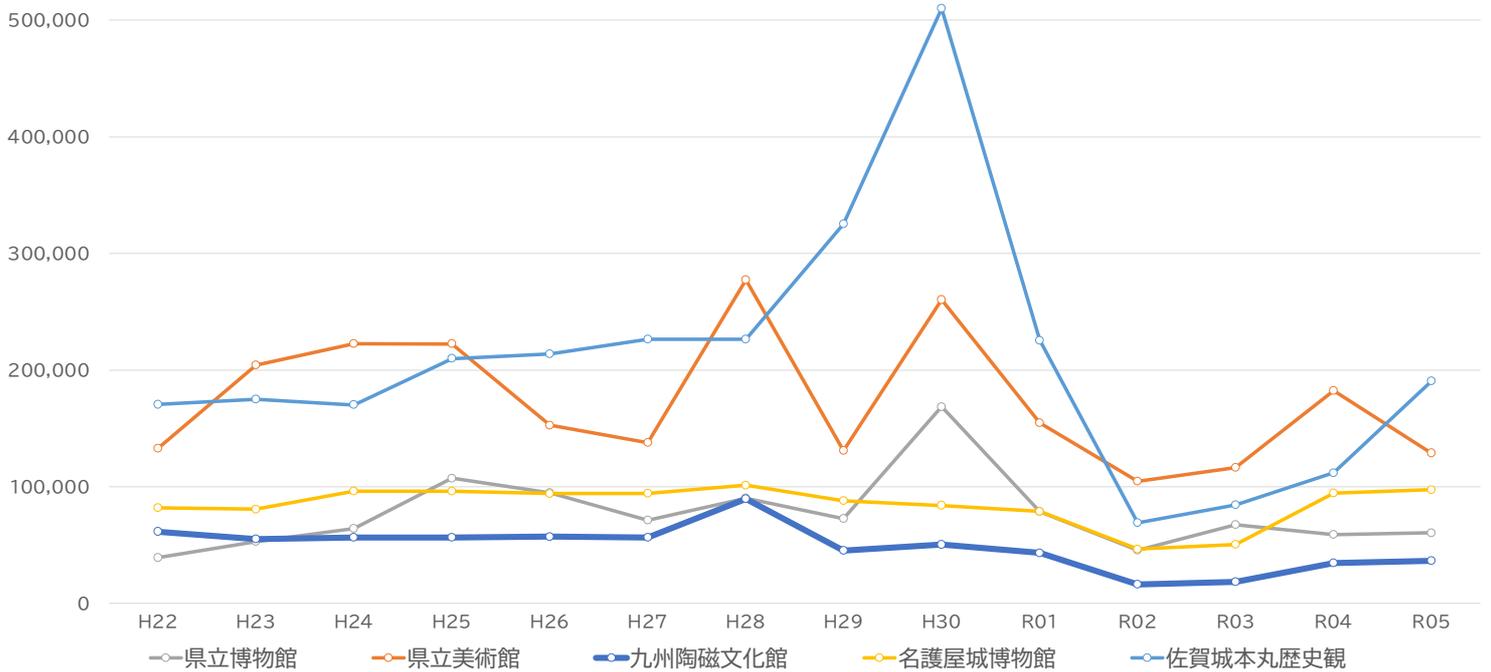
入館者の推移 (直近10年)



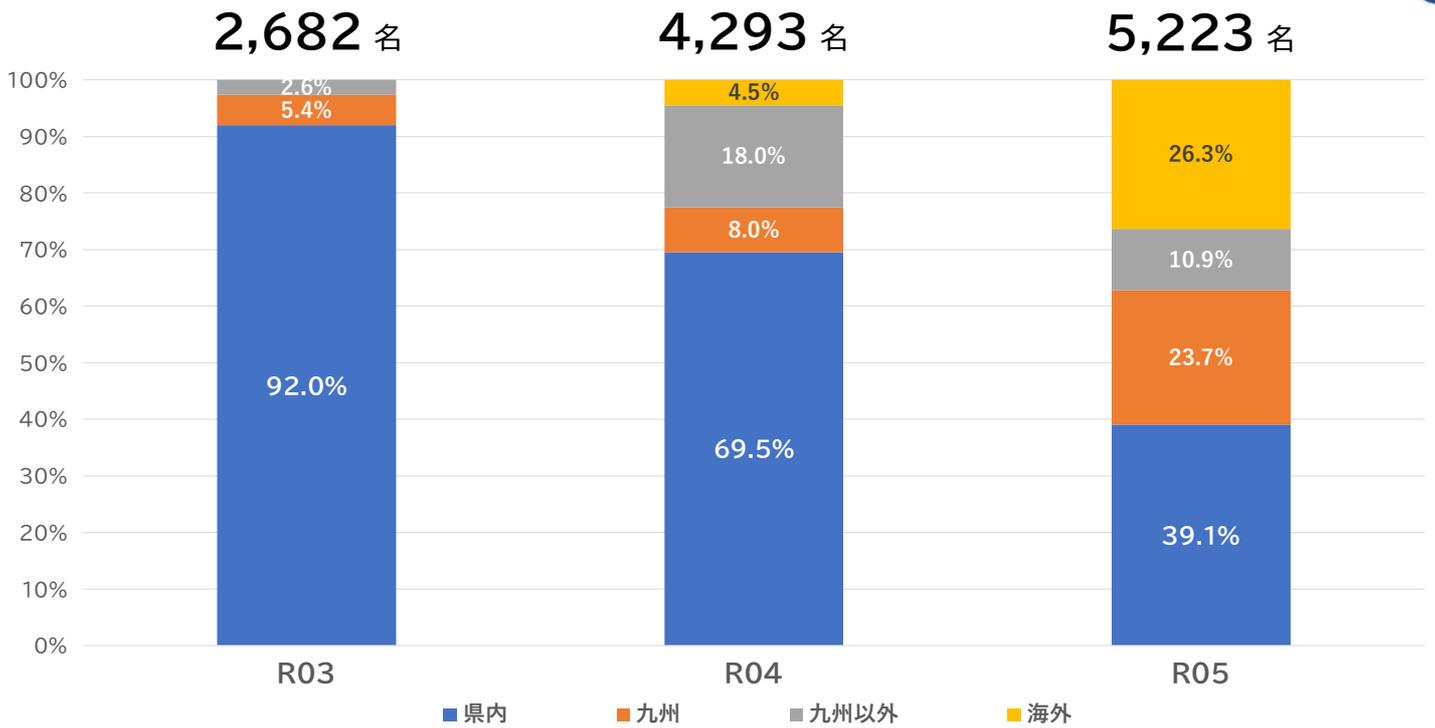
入館者の状況 (月別:平成30年度~令和5年度)



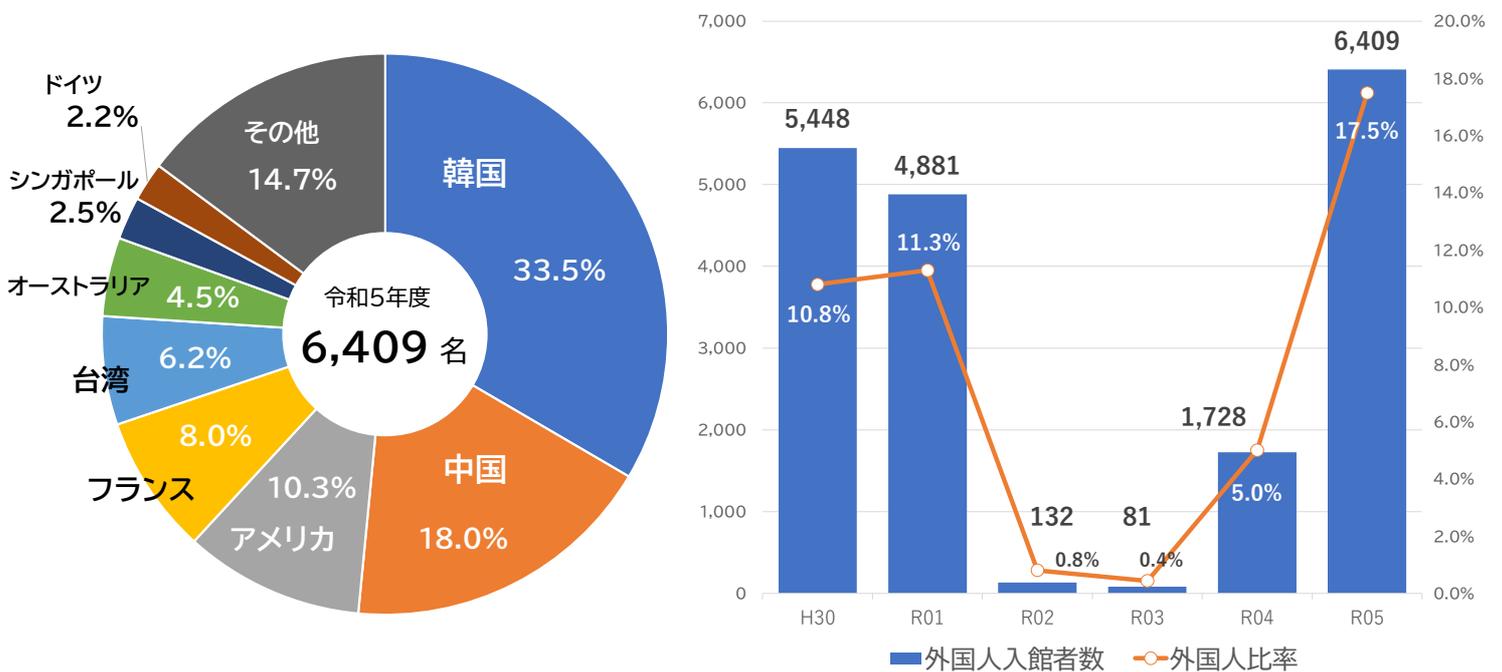
入館者の比較 (博物館施設別)



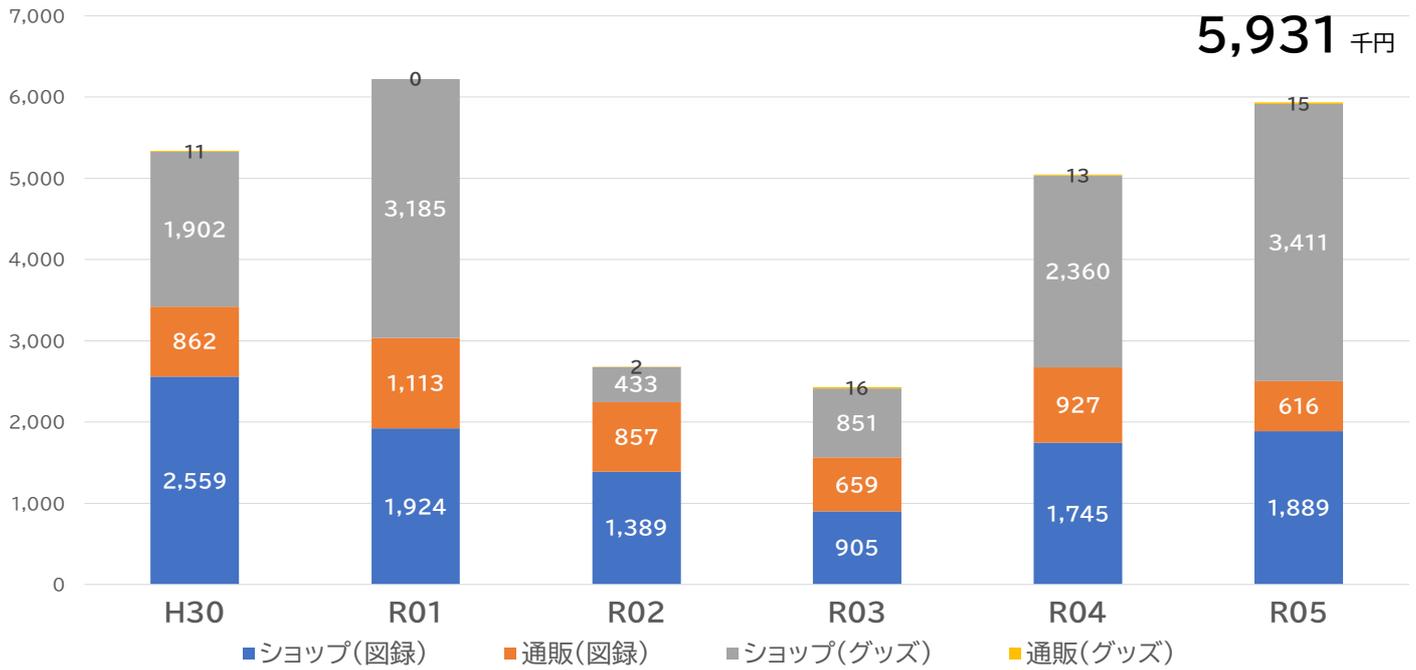
団体入館者の状況 (20名以上)



外国人入館者の状況



図録・グッズ販売額の推移



図録・グッズ販売の状況

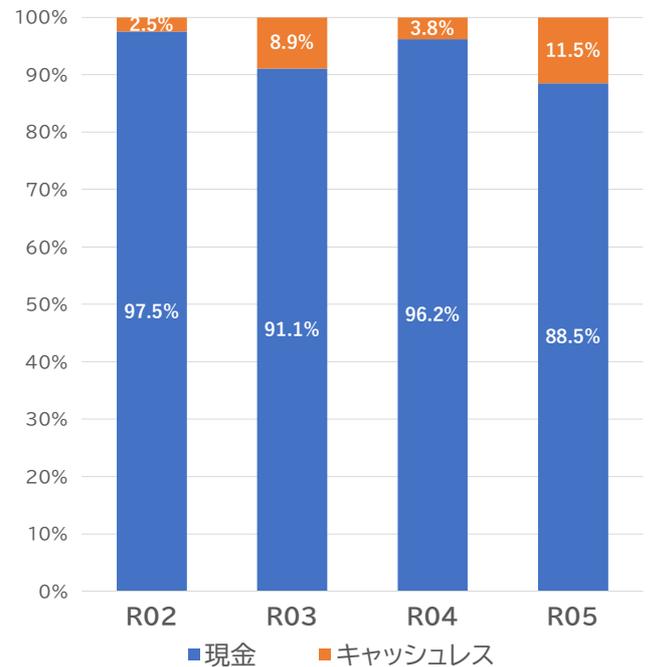


図録販売ベスト5 (R5)

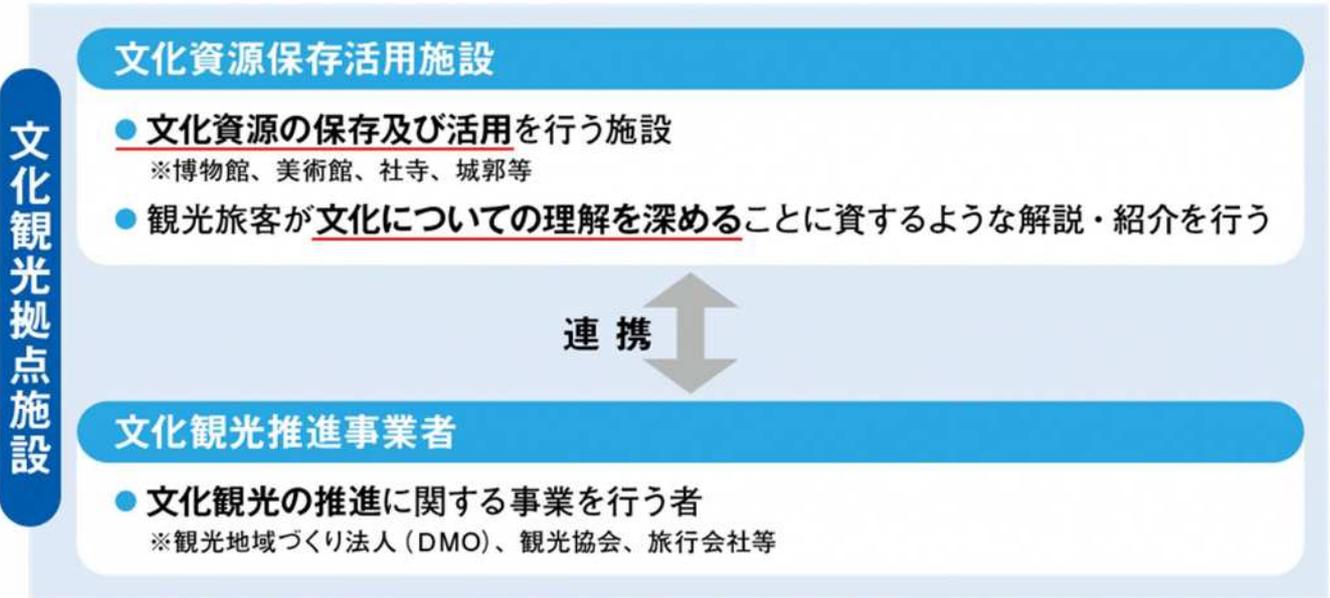
順位	品名	販売数
1	有田焼の歴史(和)	338
2	古伊万里の見方(1)	97
3	柴田夫妻コレクション総目録	85
4	古伊万里の見方(3)	79
5	古伊万里の見方(2)	78

グッズ販売ベスト5 (R5)

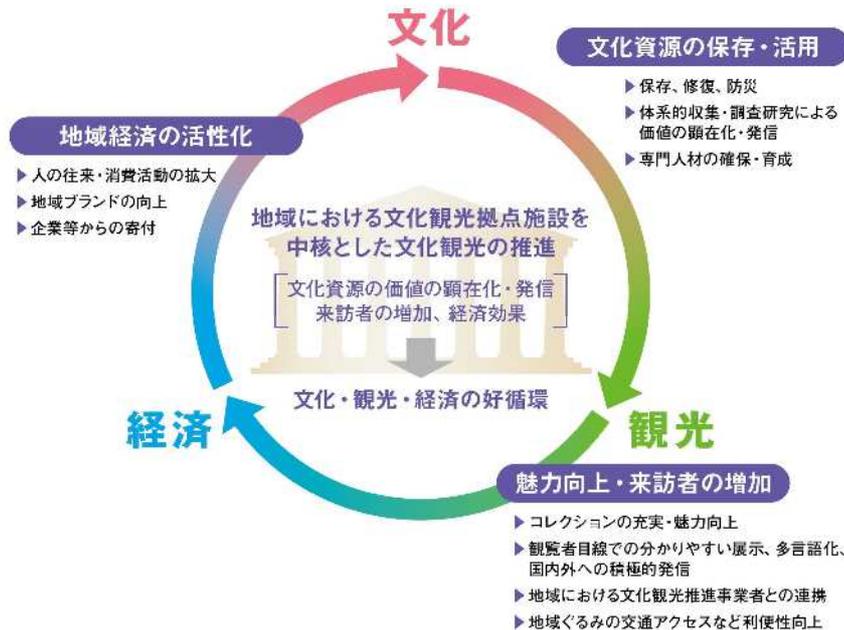
順位	品名	販売数
1	絵はがき	1366
2	有田焼マグネット(桜文)	527
3	クリアファイル(色絵花鳥文皿)	488
4	有田焼マグネット(鷺文)	355
5	クリアファイル(芙蓉文)	342



文化観光拠点施設の概念図



文化観光推進法で目指す文化・観光・経済の好循環



改正博物館法の概要



デジタルアーカイブの作成と公開

博物館の資料をデジタル化して保存するデジタルアーカイブの作成は、利用者がインターネットを通じて資料の情報へアクセスするため、あるいはインターネットを通じて博物館が自館園の魅力を発信していくための基盤となる。

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大により、特にインターネットを利用した博物館活動の意義が再認識されている。新たな制度では、**デジタルアーカイブの作成と公開**を、博物館が行う事業の一つとして新たに明確に位置付けて、取組を推進する。

学芸員等の人材の養成・研修

博物館の現場には、博物館経営をマネジメントする館長をはじめ、博物館での教育普及を担当するエドゥケーターや、資料の保存管理・修復をするコンサーバーター、広報・宣伝やファンドレイジングを担当する職員など、資料についての専門性に限らず、**博物館に必要な役割を果たす幅広い知識を持った多様な人材**が求められている。

これまででも、博物館法では、学芸員等に向けて研修を実施することとしていたが、新しい制度では、そうした研修にとどまらず、館園自らが行う人材の養成・研修制度の確立を、博物館が行い得る事業の一つに位置付けることで、博物館が主体的に実施する人材養成の取組を推進する。



改正博物館法の概要



博物館の地域の多様な主体との連携

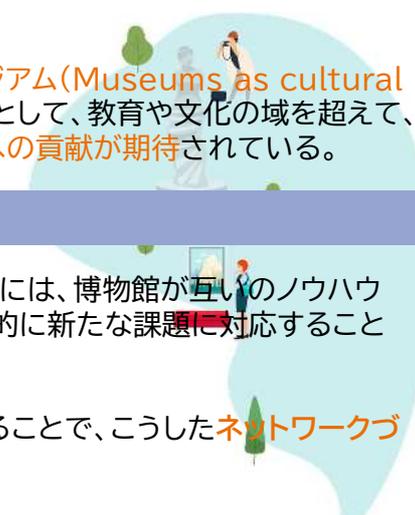
博物館は、資料の収集・保存や展示・教育、研究活動を通じて、博物館資料を未来に残していくことだけにとどまらず、現代社会をとりまく様々な事柄とつながり、社会課題の解決や地域の活性化といった多岐にわたるポテンシャルを発揮するものである。

2019年に開催された国際博物館会議(ICOM)京都大会では「**文化をつなぐミュージアム(Museums as cultural hubs)**」という理念の徹底が採択された。新しい制度では、これからの博物館の役割として、教育や文化の域を超えて、まちづくり、観光、福祉、国際交流といったさまざまな分野との連携による地域社会への貢献が期待されている。

博物館同士の連携

全国の博物館が、時代の要請や環境の変化に取り残されることなく発展していくためには、博物館が互いのノウハウやリソースを共有し合うネットワークを形成することで、小規模な館でも効率的・効果的に新たな課題に対応することができる環境を作っていくことが求められる。

新しい制度では、登録博物館が互いの**連携**や指定施設との**連携**に努めるものと定めることで、こうした**ネットワークづくりを促進**する。



1 資料の整備充実

- (1) 資料の購入や寄贈資料の受入れによる収集の促進
- (2) 文献図書等の収集整備
- (3) 陶磁片等陶磁関係資料の収集整備

2 展示活動

- (1) 常設展の整備充実
- (2) 企画展の開催
- (3) 次年度以降企画展の計画・調査

3 調査研究・教育普及活動

- (1) 資料・文献の調査収集に努め、交流等を通じて研究の進展を図る。
- (2) 展示案内や陶芸実習室の提供等により、陶芸文化に対する理解を深める。

1 資料の整備充実



館蔵資料 (令和6年3月末現在)

15,519 件

29,234 点

資料整備

寄贈資料

58 件 95 点

購入資料

2 件 6 点



購入資料 染付蔦文木瓜形小皿
肥前 大川内 鍋島藩窯
1780~1810年代



購入資料 中野月白瓷壺
重要無形文化財保持者 福島善三作
2022年

2 展示活動



常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が順を追って把握できるように構成

常設展	第1展示室	有田焼の歴史
	第2展示室	柴田夫妻コレクション
	第3展示室	九州の古陶磁
	第4展示室	現代の九州陶磁
	展示ホール	文化勲章受章者、人間国宝の作品等

第1展示室

「有田焼の歴史」



日本磁器の誕生

なぜ日本初の磁器が有田で生まれ、持続的に発展できたのか

技術の革新

新技術の導入と有田独自の技術改良で短期間に品質を向上

日本磁器の完成

日本的な磁器が確立した背景

海を渡る

世界でどのように受容され、影響を与えたか

暮らしを彩る

食をはじめ日本の生活文化に大きな影響を与えた有田焼

新時代の幕開け

再び世界に打って出た新たな時代の動き

今とこれから

現代の有田焼と未来への期待



第2展示室

「柴田夫妻コレクション」



柴田夫妻から寄贈された1万点を超える江戸時代の有田磁器の中から約**1,000**点を展示

令和5年度は柴田夫妻ゆかりの器や年代による変遷のコーナーを中心に展示替えを実施

コーナー

1. 柴田夫妻コレクション
2. 年代による変遷
3. 江戸時代の食膳
4. 種類
5. 成形・装飾
6. 手塩皿
7. 銘
8. 芙蓉手皿
9. 出土陶片との比較



コーナー3 「江戸時代の食膳」



コーナー9 「出土陶片との比較」

第3展示室 「九州の古陶磁」



唐津焼や初期伊万里、柿右衛門様式、鍋島藩窯などの名品と九州・沖縄の古陶磁を展示



令和4年12月に展示作品を入れ替え、**101**件
134点を展示

佐賀県の唐津焼や鍋島焼をはじめ、長崎県の波佐見焼、三川内焼、福岡県の高取焼、上野焼、熊本県の八代焼、小代焼、鹿児島県の薩摩焼などを紹介



第4展示室・展示ホール 「現代の陶芸」



第4展示室

創作活動が続けている九州の陶芸作家を選び、その代表作を一堂に紹介

九州5県の**93**名の作品を展示

展示ホール

佐賀県を代表する日本芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品は展示ホールで紹介

日本芸術院会員

青木龍山氏、中里逢庵氏

重要無形文化財保持者

井上萬二氏、中島宏氏、14代酒井田柿右衛門氏、14代今泉今右衛門氏



展示会名	区分	会期
第119回有田国際陶磁展	共催展	4/29～5/7
新収藏品展1 古伊万里から現代作まで	主催展	5/20～7/9
第44回九州新工芸展	後援展	7/26～8/6
第3回伊万里・有田伝統工芸士会・佐賀県陶磁器技能士連合会合同作品展	後援展	8/11～8/20
第32回陶千坊展	後援展	8/22～8/27
企画展「なんて書いてあると？ -お皿の裏話-」	主催展	9/30～11/26
新収藏品展2 古唐津とその周辺	主催展	12/9～1/8
第55回有田工業高等学校卒業制作展	後援展	1/16～1/21
第34回九州陶磁器デザイナー協会展	後援展	2/20～2/25
第39回陶交会展	後援展	3/5～3/10

第119回有田国際陶磁展

共催展

陶磁器作品の公募展

『美術工芸品・オブジェ部門』、『産業陶磁器部門』（作品の一部）を展示

会期

令和5年4月29日（土・祝）～5月7日（日）【9日間】

会場

第4～5展示室

展示作品数

73 点

入館者数

2,250 人



1位・文部科学大臣賞「天目線文彫鉢」澤山 大亮氏



2位・佐賀県知事賞「白妙彩磁鉢」庄村 久喜氏



3位・有田町長賞「紅白鮮 水影 -2302-」増原 嘉央理氏

新収蔵品展1 古伊万里から現代作まで

主催展



ドイツのザクセン選帝侯の旧蔵品として伝わった金襴手様式の皿をはじめとする江戸期から明治期の有田焼など、近世から現代までの作品を紹介

会期

令和5年5月20日(土)～7月9日(日)【51日間】

会場

第5展示室(一部は他の展示室に展示)

展示作品数

42 件 51 点

入館者数

3,734 人



色絵花盆文大皿



色絵牡丹唐草文蓋物



染付雲鶴文杏葉紋花瓶

第44回九州新工芸展

後援展



九州新工芸家連盟会員や公募による陶芸、金工、漆芸、染色、木竹、皮革、硝子、七宝、人形、紙工芸など、多岐にわたり生活との接点が非常に多い作品を展示

主催

九州新工芸家連盟

会期

令和5年7月26日(水)～8月6日(日)【12日間】

会場

第5展示室

展示作品数

37 点 (磁器4点・陶器8点・染色・14点・竹工6点・人形4点・他1点)

入館者数

1,105 人



「優しい時間」奥田民子氏
令和5年度 大賞

第3回伊万里・有田伝統工芸士会・佐賀県陶磁器技能士連合会合同作品展

後援展



伊万里・有田焼伝統工芸士の匠の技が光る作品を展示

令和3年度から佐賀県陶磁器技能士連合会との合同作品展として開催

主催

伊万里・有田焼伝統工芸士会、佐賀県陶磁器技能士連合会

会期

令和5年8月11日(金・祝)～8月20日(日)【9日間】

会場

第5展示室

展示作品数

約 **100** 点

入館者数

1,006 人



第32回陶千坊展

後援展



子供のように純真・純粹な感性と心で焼き物を製作し、新しいことに果敢に挑戦する仲間として集い、自由でかつ達な運営により相乗的な技術的向上と発展を目指す陶芸展

主催

陶千坊

会期

令和5年8月22日(火)～8月27日(日)【6日間】

会場

第5展示室

展示作品数

391 点 (陶芸作品全般(オブジェ、器、陶人形等))

入館者数

545 人



企画展「なんて書いてあると？ -お皿の裏話-」

主催展



やきものの裏側に注目し、バラエティに富んだ銘の世界を分かりやすく紹介する展覧会

やきものの裏に書かれた文字やマークの種類や変遷を解説

(イベント)

- ① 学芸員によるギャラリートーク
- ② 九州陶磁文化館やきものセミナー(第5、6回)

展示構成

- Q.1 お皿の裏には何が書いてあるの？
- Q.2 どんな種類があるの？
- Q.3 時代によって違うの？
- Q.4 銘のこと もっと知りたい！

会期

令和5年9月30日(土)～11月26日(日)【50日間】

会場

第4～5展示室

展示作品数

約 **170** 件

入館者数

7,295 人



新収蔵品展2 古唐津とその周辺

主催展



令和4年度に寄贈された安土桃山時代から江戸時代前期の古唐津と初期伊万里を中心に、九州陶磁のルーツといえる朝鮮時代の陶磁器など質の高い多彩な作品群を展示

会期

令和5年12月9日(土)～令和6年1月8日(月・祝)【22日間】

会場

第5展示室

展示作品数

30 件 **43** 点

入館者数

1,890 人



鉄絵草文四方皿



鉄絵葦鳥文播座四方猪口



鉄絵蔓草文壺



染付蓮文皿



土灰釉釜形水指



釘彫伊羅保茶碗

第55回有田工業高等学校卒業制作展

後援展



有田工業高校生の卒業制作展

卒業学年(セラミック科、デザイン科、電気科、機械科、聴講生)の「課題研究」で取り組んだものを中心に、多種多様な分野に果敢に挑戦して制作した作品を展示

主催

佐賀県立有田工業高等学校

会期

令和6年1月16日(火)～1月21日(日)【6日間】

会場

第5展示室及び一般研修室

展示作品数

約 **200** 点 (生徒数174人)

入館者数

2,204 人



第34回九州陶磁器デザイナー協会展

後援展



九州陶磁器デザイナー協会(通称DAKT)の会員によるテーマに合わせた陶磁器作品
第34回目のテーマは「生活のリアリティー」

主催

九州陶磁器デザイナー協会

会期

令和6年2月20日(火)～2月25日(日)【6日間】

会場

第5展示室及び一般研修室

展示作品数

204 点

入館者数

862 人



テーマ『material』、陶交会に参加している15名により制作発表される作品と、佐賀大学有田キャンパスの学生の作品の展示



主催

陶交会

会期

令和6年3月5日(火)～3月10日(日)【6日間】

会場

第5展示室

入館者数

832 人

3 調査研究・教育普及活動

調査研究活動

調査	資料調査、在外肥前時期調査(韓国)など 4 件		
調査協力・広報・研修	各種研修会、審議会など 10 件		
依頼資料調査	来館依頼調査	31 回	64 件 82 点
	写真等依頼調査	54 回	132 件 229 点
	計	85 回	196 件 311 点

印刷物等の刊行



紀要「佐賀県立九州陶磁文化館 研究紀要」第9号

発行日

令和6年(2024年)3月24日

規格

A4判、69ページ

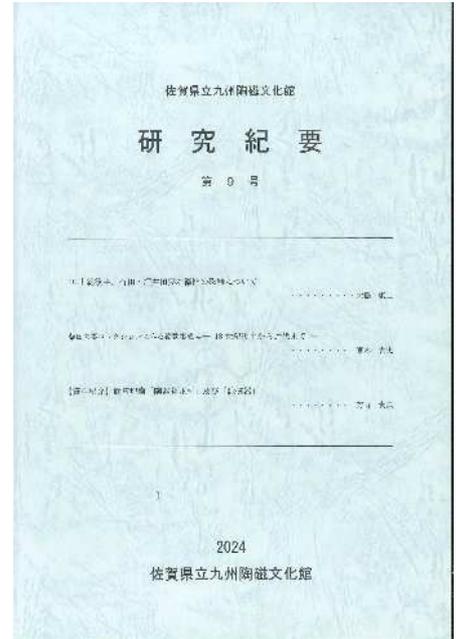
内容

18世紀後半に柿右衛門窯が製作した磁器を明らかにする論考や、柴田夫妻コレクションにみられる銘の紹介、19世紀の儒者による肥前陶磁に関する詩の紹介といった調査研究の結果を収録

「18世紀後半、有田・酒井田実右衛門の磁器について」大橋康二

「柴田夫妻コレクションにみる銘款集成4— 18世紀後半から近代まで—」宮木貴史

「【資料紹介】武富圴南「陶器賛並引」及び「詠磁器」」芳野貴典



印刷物等の刊行



「Guidebook to Permanent Exhibition History of Arita Ware ~A Miraculous Story Told in Porcelain~」

発行日

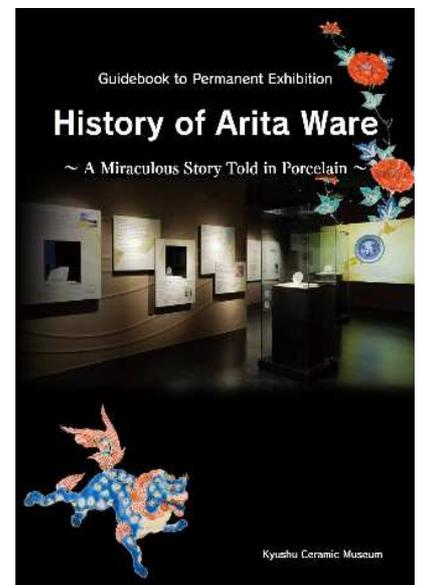
令和6年(2024年)3月15日

規格

A5判、88ページ

内容

令和4年(2023年)4月にリニューアルオープンした第1展示室「有田焼の歴史」の展示内容を解説したガイドブックの英語版



笑顔deさいこうマルシェ in 九州陶磁文化館

期間

令和5年4月29日(土・祝)～5月5日(金・祝) 【7日間】

内容

お菓子・雑貨・手芸品など個性あふれる6店舗が出店



夏休み子供向けイベント

期間

令和5年7月21日(金)～ 8月31日(木) 【36日間】

内容

子ども連れの家族を対象のイベント開催

オリジナル風鈴

有田焼の風鈴にペンで絵付けをしてオリジナル風鈴を制作



白いうちに絵を描こう

うちに好きな絵を描いたり、スタンプを押したりして飾りつけ



九陶探検とはしおきづくり

収蔵庫など館内を学芸員と探検、有田焼のはしおきづくり



九陶の蝶々に隠されたなぞを解け!

展示室で蝶の文様のある作品を探して、クイズにチャレンジ



クリスマスイベント

期間

令和5年12月9日(土)～12月24日(日)【14日間】

内容

アドベントカレンダー作り

クリスマス当日までをカウントダウンするカレンダーづくり



クリスマスベルをつくろう！

空焼きのベルに絵をかくてデコレーション



クリスマスコンサート

久米詔子氏によるエレクトーンコンサート



佐賀交響楽団メンバーによるミニコンサート

佐賀交響楽団メンバーによるアンサンブルコンサート



ひなまつりイベント

期間

令和6年1月30日(火)～3月10日(日)【36日間】

内容

「ひなまつりぬりえ」展示

有田町内の保育園などの年長児のひなまつりぬり絵展



世界最大の磁器製座り白磁びな七段飾りの展示

世界最大の磁器製座り白磁びな七段飾りを展示



ひなまつり九陶フェス

九州陶磁文化館×ポヌールマルシェ
有田町内中学校吹奏楽部コンサート



Shinoe LIVE in 九州陶磁文化館
展示室ガイドツアー



令和6年度事業



展覧会（企画展・テーマ展など）



展示会名	区分	会期
第120回有田国際陶磁展	共催展	4/29～5/7
米寿特別記念「和紙染 江口勝美陶芸展」	後援展	5/14～5/26
寄贈記念展「赤戯幸コレクション」	主催展	6/1～7/15
第45回九州新工芸展	後援展	7/24～8/5
第20回伊万里・有田伝統工芸士会展	後援展	8/10～8/18
寄贈記念・特別企画展「瀬川竹生コレクション 江戸大皿百物語」	主催展	9/7～11/4
第56回有田工業高等学校卒業制作展	後援展	1/21～1/26
第35回九州陶磁器デザイナー協会展	後援展	2/11～2/16
第33回陶千坊展	後援展	2/18～2/24
第40回陶交会展	後援展	3/4～3/9

第120回有田国際陶磁展

共催展



陶磁器作品の公募展

『美術工芸品・オブジェ部門』、『産業陶磁器部門』(作品の一部)を展示

会期

令和6年4月29日(月・祝)～5月7日(月・祝)【9日間】

会場

第4～5展示室

展示作品数

74 件

入館者数

2,588 人



1位・文部科学大臣賞 奥川 真以子氏
【Maron Fleur 24-02】



2位・佐賀県知事賞 川崎 精一氏
【月下美人陰刻鉢】



3位・有田町長賞 丸田 巧氏
【WAVE 2024】

寄贈記念展 「赤戯幸コレクション」

主催展



個人収集家から寄贈された初期伊万里、初期色絵、初期鍋島を中心に構成された上質な作品群を展示

会期

令和6年6月1日(土)～7月15日(月・祝)【39日間】

会場

第5展示室、展示ホール

展示作品数

43 件 47 点

入館者数

3,914 人

SHAKUJIKŌ Collection : The Essence of Shaki-Imari, Shaki-Iroae, Shaki-Nabeshima

寄贈記念展

赤戯幸コレクション

—初期伊万里・初期色絵・初期鍋島の精華—

2024年6月1日(土)～7月15日(月・祝)

開催時間 9:00～17:00 休館日 6月16日(月・祝)

入場無料

九州陶磁文化館
9 KAWASUMI MUSEUM OF CERAMICS
〒840-0292 佐賀県佐賀市佐賀区上戸 1-1-1
TEL: 0942-22-1111
https://www.kcc.or.jp/



色絵椿繫文小皿



色絵菊七宝文変形皿



染付吹墨鷺文皿



色絵菊鳥文大皿



稀代の大皿コレクター 故瀬川竹生氏から寄贈された大皿を展示
大皿には、歌麿や広重の浮世絵をはじめ、東海道五十三次、金太郎、浦島太郎、蟹気楼、名酒の樽、鯉の滝登りなど、当時を反映する様々なテーマが生き生きと描写

会期

令和6年9月7日(土)～11月4日(月・祝)【51日間】

会場

第3展示室、第4展示室、第5展示室

展示作品数

120 件 120 点



染付龍虎文輪花大皿



染付十二支八掛文大皿



染付山姥金太郎文大皿



青磁染付登龍門文大皿

やきものセミナー開催



日時

6月から 毎月第3土曜日 13:30～15:00

会場

研修室1・展示室等

受講料

無料

定員

各講座 30 名

開催日	タイトル・内容	講師
6月15日(土)	寄贈記念展「赤戯幸コレクション」関連講座 赤戯幸コレクションのみどころ	巖 由季子
7月20日(土)	やきもの間違いさがし【初心者・子ども向け】	宮木 貴史
8月17日(土)	小城の松香溪(松ヶ谷)焼	徳永 貞紹
9月21日(土)	特別企画展 瀬川竹生コレクション「江戸大皿百物語」関連講座 江戸後期の皿一流通と受容(仮)	芳野 貴典
10月19日(土)	特別企画展 瀬川竹生コレクション「江戸大皿百物語」関連講座 有田大皿のみどころ一裏側の世界(仮)	宮木 貴史
11月16日(土)	佐賀で発掘された朝鮮半島の陶磁器	徳永 貞紹
12月21日(土)	描かれた陶磁器(浮世絵編)(仮)	藤原 友子
1月18日(土)	描かれた陶磁器(西洋絵画編)(仮)	藤原 友子
2月15日(土)	何が入っていたのかな?—陶磁器製容器とその中身	巖 由季子
3月15日(土)	史料で読み直す有田焼の歴史(江戸前期編)	芳野 貴典

名称

夏休み子供向けイベント

期間

令和6年7月20日(土)～8月25日(日)

イベント

有田焼箸置き作り

石膏型による型押し成型と色呉須による絵付けによる箸置きづくり

焼き物ガチャ

肥前吉田焼のガチャガチャ

有田焼ジオラマ作り

有田焼ミクロスを使ったジオラマ作り

エコバッグ作り

おすもうさんスタンプ(副武製陶所)を使ったトートバッグ作り

マグカップ作り

らくやきマーカーによる絵付けでマグカップ作り

陶片アート作り

陶片を使ったフォトフレーム作り

やきものクイズ

各展示室にクイズを設置 クイズ回答者に缶バッジをプレゼント

ミニコンサート

佐賀交響楽団メンバーによる弦楽器と管楽器アンサンブル



秋の行楽シーズン、クリスマス、ひなまつりもイベントを検討

令和5年度 意見と対応



意見	対応
<p>広報について</p> <p>SNS発信が大事。職員ではなく専門家にまかせたほうがよいのではないか。</p> <p>夏休みイベントのチラシは回覧や全戸配布を検討してほしい。</p> <p>紙媒体に頼りすぎ。ターゲットを絞った宣伝手法を検討してほしい。</p>	<p>広報予算獲得が困難であることもあり、工夫が必要。まずは、佐賀県が有する広報ツール(広報広聴課、文化課など)を有効活用する。また、ファンマーケティングなどを取り入れ、支持者(ファン)がSNSや口コミで自発的に情報発信・拡散してもらえるよう努める。</p> <p>今年度から有田町は全戸配布、伊万里市、武雄市、嬉野市は学校を通じて、小学生全員に配布。県や九州陶磁文化館のホームページにも掲載している。</p> <p>把握している基本属性(大人・学生・子供、団体観覧の出発エリアなど)からターゲットを絞り込み、ペルソナを設定して、効果的な宣伝手法を検討していきたい。</p>
<p>案内表示について</p> <p>道路標示も少し手前から九州陶磁文化館が分かるようにしてほしい。</p>	<p>道路標識はハードルが高いが、開館当時からある大型の案内塔や館の入り口に道路から視認できる案内版がある。デジ田交付金などDXIに対する国の支援メニューもあるので、デジタルサイネージ導入などを検討したい。</p>



意見	対応
<p>文化観光について</p> <p>博物館は教育普及の場、研究の場だけではなく、地域の課題解決のためにいろいろな部署と協力しなければいけない。文化観光も喫緊の課題となっている。</p> <p>有田は産業観光プラス文化観光ができる稀有な町。九州陶磁文化館と一緒に文化観光を磨き上げたい。</p>	<p>文化観光推進法制定、博物館法が改正され、自治体、博物館等の文化施設、観光事業者、地域住民が連携して文化と観光、地域経済における好循環を生み出すことが期待されている。</p> <p>ステークホルダーと協議して、国の支援メニュー活用なども視野に入れながら検討したい。</p>
<p>調査研究について</p> <p>九州陶磁文化館は陶磁器研究の頂点。引き続き陶磁器調査研究を先導してほしい。</p>	<p>文化観光など新しい活用と価値の創出に取り組むフェーズに入ったが、前提として調査研究、文化財の確実な保存と継承は基本的な使命。しっかりと取り組んでいきたい。</p>
<p>展示解説について</p> <p>子供向けの解説や詳しく知りたい方向けの詳細情報(作品、作家、窯など)をスマホで読みこむことで表示できるとよい。</p>	<p>展示スペースでの紙による情報表示は限界があるので、多言語化も含めQRコードなどを活用してデジタルデバイスで表示することは有効。どのようなツールが活用できるか研究したい。</p>
<p>ツアー造成について</p> <p>九州陶磁文化館で食を絡めたツアーのようなものをつくれなにか。</p> <p>海外からの富裕層誘致に向け、通常見学できない場所のツアーなどができないか。</p>	<p>まさに文化観光推進法や改正博物館法が目指している文化と観光、地域経済における好循環を生み出すための取組。実現に向けステークホルダーと協議して効果的な手法を検討したい。</p>